



# データ科学教育スキームの実施に際して

(実施してみて分かったこと、課題、良かった点など)

2025年7月30日(水)

東京女子大学 現代教養学部 情報数理科学科,  
AI・データサイエンス教育研究センター 運営委員

新田 徹

# 1. 履修の状況

- 履修状況は概ね良好
- 成績は、全体的に両校の想定通り。成績分布も本学の他の科目と同程度。教科書は本格的な内容である一方で、動画はわかりやすい説明となっている（担当教員談）。「データ科学入門 α」>「データ科学入門 β」
- 「データ科学入門 α」に続いて開講された「データ科学入門 β」では、受講の放棄と思われる極端に低いテストの点数が散見された（その数は想定通りの数ではあった）。
- →「データ科学入門 α」終了から「データ科学入門 β」開始までが1週間と短かったため、「データ科学入門 β」に対する学生の受講意図が追いつかなかったことも一因…？

- 学生へのケアやエンカレッジ、あるいは、「データ科学入門 α」から「データ科学入門 β」へのスムーズな移行を促す仕組みを用意した方がいいかもしない。
- → たとえば、学生へのアナウンスをより早めに行うなどが考えられる。特に、**最初の課題締め切りに対するアナウンスメントが大切。**

## 2. 履修者の定員

- 「データ科学入門 α」と「データ科学入門 β」のそれぞれの定員を100名とした(業務処理上の制約による)
- → 履修申請者数が100名を超えたので制限をかけた
- 2025年度以降は定員150名の体制を整えていただいた。

### 3. 受講を促すアナウンスメント

- 練習問題や小テストの締め切りのアナウンスメントは、  
学生に受講を続けさせるための肝(ポイント)。
- 毎週決まった時間に登校する対面授業とは違い、学生が自分自身を律する必要がある。
- 「オンデマンド授業の場合、1回諦めると二度と戻って来ない」(担当教員談)

## 4. 「データ科学入門 γ」受講の体制について

- 現状、「データ科学入門 α」と「データ科学入門 β」を受講せず  
に、いきなり「データ科学入門 γ」を受講することもできる。しかし、  
「データ科学入門 α」と「データ科学入門 β」の内容を学ば  
ずに、いきなり「データ科学入門 γ」の内容を理解することは難  
しいので、対策が必要。
- 実際、2025年度の状況を見てみると、いきなり「データ科学入  
門 γ」を受講した学生の場合、合格率は低かった。

- 対策として、シラバスで注意を促す：「データ科学入門  $\gamma$ 」を受講する場合、「データ科学入門  $\alpha$ 」と「データ科学入門  $\beta$ 」を履修済みであることが望ましい、などと書く。
- ただし、意欲のある学生のため、「データ科学入門  $\alpha$ 」と「データ科学入門  $\beta$ 」を履修せずに「データ科学入門  $\gamma$ 」を履修することは妨げない（オープンにしておく）。

## 5. 学生からの質問

- 「データ科学入門 α」と「データ科学入門 β」を通して、**質問は1件のみ**(LAバーチャルオフィス：早大様ご提供)であった。
- オンライン上の**ディスカッション掲示板**(早大様ご提供)への書き込みはなかった。
- 東京女子大学にて**対面のオフィスアワー**を用意していたが、質問はなかった。

## ● 質問の割合

- 東京女子大学： 質問数／受講者数 = 1/198 (のべ受講生) = 約0.5%
- 早稲田大学： 質問数／受講者数 = 320/約18,500 = 約1.7%
- … 対面での相談 93%、LAバーチャルオフィス 7% (オンラインは敷居が高い?)
- (サンプル数が随分と違うので、あくまで参考程度)
- → 分析が必要：
- 他大学の学生のため質問しにくかったのか？
- 女性特有の現象なのか。
- などの観点から。
- → 途中経過(アンケート)：「質問する必要がなかった」(約4割)

## 6. 授業担当者の負担

- 「それほどの負担感はなかった」
- 「授業準備については、教材が既に用意されているため、主にその内容を読み込み、学生からの質問に適切に答えられるよう準備することに集中」

## 7. 今後の課題

- 教育効果の測定